
TOKYO FM の番組『山下達郎のサンデー・ソングブック』が 第 38 回放送文化基金賞「ラジオ番組 優秀賞」受賞 同番組パーソナリティ・山下達郎氏が個別分野「出演者賞」受賞 3/11 放送: 「東日本大震災一周年 追悼と復興祈念プログラム」

本日(5月28日)、TOKYO FM の番組『山下達郎の TSUTAYA サンデー・ソングブック』が、「第 38 回 放送文化基金賞」ラジオ番組部門にて、優秀賞を受賞したことが発表されました。「放送文化基金賞」は、公益財団法人 放送文化基金が毎年実施している表彰事業です。

優秀賞を受賞したのは、『山下達郎の TSUTAYA サンデー・ソングブック』の2012年3月11日放送分で、東日本大震災からちょうど1年の震災発生時刻を迎えるにあたり、ラジオの原点ともいえる、「ひとときの癒し、あるいは希望を感じられる音楽」と「言葉に力を持った信頼感のあるパーソナリティの語り」で構成し、放送したものです。

更に、同番組のパーソナリティ・山下達郎氏が、個別分野・出演者賞を受賞いたしました。

<入賞作品紹介>

- タイトル : 山下達郎の TSUTAYA サンデー・ソングブック
- 放送日時 : 2012年3月11日(日) 14:00~14:55 (JFN系全国38局フルネット)
- 出演者 : 山下達郎
- プロデューサー : 原田洋子 (TOKYO FM)、砂井博文 (エフエムサウンズ)
- ディレクター : 山岸清佳 (フリー)、宮本貴文 (アシスタント・ディレクター、エフエムサウンズ)
- ミキサー : 小太刀健 (メディアコミュニケーションズ)
- 番組の梗概 : 山下達郎がパーソナリティをつとめるオールディーズ・プログラム。

無類のレコードコレクターでもある山下達郎が自身の所有するレコード、CD からセレクトしたこだわりの選曲を、山下達郎自身の手でラジオ用にデジタルプロセッシングされた最高の音質でオンエアしている人気プログラムで、現在19年目を迎えている。

東日本大震災から1年。発生時刻の14時46分を番組放送時間内に迎える3月11日(日)の放送は、「東日本大震災一周年 追悼と復興祈念プログラム」と題して、前半は被災したリスナーのお便りを紹介しながら、山下達郎自身も「心の平安に役立っている」洋楽曲をオンエア。後半は山下達郎の楽曲の中から、心の支えとなる歌詞の内容で特に震災後リクエストも多かった2曲をCD化されていない貴重なアコースティックライブ音源(「蒼氓」と、この日の番組のために新たなスタジオレコーディングしたアコースティックバージョン(「希望という名の光」)でオンエアした。

震災発生時刻となる14時46分は、山下達郎から追悼と復興記念のメッセージに続いて1分間の黙祷、竹内まりやの「いのちの歌」で番組を締めくくった。

- ねらい、反響、自薦理由等 : 東日本大震災からちょうど1年。震災発生時刻を番組放送時間内に迎えるにあたり、音声メディアとして何を発信すべきかを考えた時に、「ひとときの癒し、あるいは希望を感じられる音楽」と、「言葉に力を持った信頼感のあるパーソナリティの語り」で構成されるラジオの原点ともいえる音楽番組を全国に鳴らしたいと考えました。

「山下達郎のサンデー・ソングブック」は1992年の10月に「サタデー・ソングブック」としてスタートし、1994年4月に現在の日曜午後2時に時間を移して19年半の歴史がありますが、山下達郎が本人の音楽のルーツである1950年代~70年代のオールディーズを中心に自らが選曲、構成し、自分の言葉で紹介する、というスタイルはスタート当初より変わっていません。

山下達郎の音楽に対する愛情、番組に向き合う真摯な姿勢、社会情勢やリスナーの心境に配慮しながら紡ぎだされる言葉たち、そして歌。「サンデー・ソングブック」こそ、この時間にふさわしいと判断し、「東日本大震災一周年 追悼と復興祈念プログラム」を企画いたしました。特別番組ではなく毎週放送しているレギュラー番組だからこそ、説得力がありリスナーに届くと考えたからです。

放送スタートと同時にツイッターなどのソーシャルメディアで多くの書き込みが発信され、「ラジオの特性を十分に活かした、心にしみる素晴らしいプログラムだった」「震災関連番組の中で、いちばんあたたかく心にダイレクトに響いた」「達郎さんの歌と言葉に込める誠意に敬服」など多くのリスナーから賞賛の声が寄せられました。